

人口ビジョン

中長期展望

加美町の現状分析

- ◇ 平成15年の合併時をピークに毎年減少
- ◇ 平成7年以降 老年人口数と年少人口数が逆転
- ◇ 平成23年以降 死亡数は出生数の2倍以上
- ◇ 平成25年の合計特殊出生率1.33 (全国1.43)
- ◇ 毎年160人以上の転出超過 (約半数が10代後半～20代前半)
- ◇ 基幹産業の農業従事者の半数以上が60歳以上
- ◇ 平成72年の人口は11,000人と推計
- ◇ 20～39歳の女性人口は全人口の1割未満
- ◇ 人口減による個人住民税収の減少
- ◇ 公共施設の更新による財政負担

人口の将来展望に向けた意識調査

- 町民満足度調査 ● 子ども子育てアンケート調査
- 定住就労に関するアンケート調査 (中新田高校・宮城大学)
- まちづくりワールドカフェ



- 【子育て】 小児医療の充実、公園整備、保育に対する経済的支援や一時預かり保育の充実
- 【若者定住】 公共交通の充実、にぎわい創出、まちのPRとイメージアップ、就職・起業支援
- 【その他】 教育環境の充実、生活の利便性向上、地域資源の発掘、継者対策、地域コミュニティの充実

加美町の基本的な課題

- ◇ 優れた自然との共生 ◇ 産業、経済基盤の安定
- ◇ 安心して生活できる生活基盤の整備 ◇ 保健・医療・福祉
- ◇ 教育環境の充実と町の発展を担う人材の育成

平成72(2060)年の遠方目標

1. 地域資源を活用したお金の循環を生み出す里山経済の確立

食住の自給を目指し、エネルギー、食料、建物の地産地消を進め、お金の循環を生み出すとともに、観光資源を活用したお金の流入する仕組みを構築します。

2. 健康社会の実現による、誰もが健康で心豊かに暮らせる地域づくり

生活の質(QOL)を極力保ちながら、生きがいづくりや歩きたくなるまちづくりを進め、高齢者も安心して住み続けられる地域づくりを目指します。

3. 安心して子どもを産み育てられる子ども・子育て応援社会の実現

町を上げて子どもや子育て世帯を応援する姿勢を示し、また、子どもたちが夢や目標を持ち、生きる力や必要な学力を身に付け、健やかに成長する環境を整備し、移住定住の促進を図ります。

善意と資源とお金と自然にやさしいまちづくりを実現

平成72年 目標人口：1万5000人

総合戦略(平成27年度～31年度の5年間)

位置づけ

期間は5年間とし、第二次総合計画に含まれ、同計画を進める推進力と位置づけ、実施事業は同実施計画と整合を図り展開していきます。

理念

【共生】

船形山、葉菜山、鳴瀬川をはじめとする本町の豊かな自然環境を保全するとともに、これらが有する資源を再生可能エネルギーや美しい環境づくり、雇用の創出、食の地産地消など最大限に生かし、人と自然が共生するまちづくりを推進します。

【協働】

住民と行政は情報を共有し、対等なパートナーとして共に知恵や労力を出し合い、支え合い、外部人材の有効活用を図りながら、地域の課題解決に取り組む協働のまちづくりを推進します。

【自治】

3つの地域における行政機能を維持するとともに、それぞれの地域に住む人々が、自ら考え行動し、地域の歴史や、風土、文化を生かしながら、魅力のある持続可能な地域を創り、次世代に引き継いでいく、住民自治に根差したまちづくりを推進します。

基本姿勢

メディア戦略を柱とする情報提供

インターネットを含む様々な広告媒体を通じて、多様化する消費者行動に対し、効率的に加美町を伝える仕組みを構築します。

実施事業の情報提供はメディアを複合的に活用し、情報の拡散を図ります。

事業推進体制

総合的・横断的に取り組む柔軟で機動性の高い組織を編成し、行政の総合力を発揮します。

町民や企業・各種団体との連携協働による進捗管理を行い、町全体での推進体制を構築します。

評価検証方法

各施策の評価検証は、外部有識者等を含む検証機関により実施し、検証にはPDSAサイクルを用いて検証や考察を行います。

基本目標

【基本目標①】

里山経済の確立

エネルギー・食料・木材などの地産地消を進め、地域内における雇用やお金の循環を生み出すとともに、観光資源を活用した人とお金の流入するまちづくりを進めます。

◆指標：生産年齢人口

11,688人 → 11,968人 (280人増)
(社人研推計値)

【基本目標②】

健康社会の実現

誰もが健康で心豊かに暮らせる社会を目指し、生きがいを感じられるとともに、歩きたくなる、歩いて用事が足せるまちづくりを推進します。

◆指標：生活の質が向上し、加美町での生活に幸福を実感している人の割合

69.1% → 75%
(H24満足度調査) (H31年に調査)

※加美町が「好き」、「どちらかと言えば好き」の人の割合と比較

【基本目標③】

子ども・子育て応援社会の実現

実効性のある少子化対策に取り組み、町を挙げて子どもや子育て世帯を応援するとともに、子どもたちが夢や目標を持ち、生きる力を身に付け、自己実現できることで、たくさんの子どもたちの笑顔に会えるまちづくりを進めます。

◆指標：合計特殊出生率の改善

1.33 → 1.6
(H25年度)

重要業績評価指標(KPI)

施策① 地域エネルギー資源の活用
KPI：年間バイオマス発電量
●720,000kwh

施策② 地元木材の活用
KPI：地元木材利用民間住宅件数
●累計50件(H27～31年度)

施策③ 観光資源の活用
KPI：年間観光入込客数
●1,300,000人

施策④ 特産品開発・販売促進
KPI：起業育成支援事業認定件数
●累計15件(H27～31年度)

施策① 健康習慣の確立
KPI：小学生の肥満傾向児の割合
●男子15%未満、女子10%未満

施策② 生きがいづくりの推進
KPI：コミュニティビジネスの創出件数
●累計5件(H27～31年度)

施策③ 歩きたくなるまちづくり
KPI：町情報発信facebook「いいね」件数
●平均1,000件

施策④ 地域包括ケアシステムの確立
KPI：平均寿命と健康寿命差の改善
●男性1.53年 女性3.24年

施策① 学校教育の充実
KPI：将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合
●小学生80%、中学生70%

施策② 子育て支援の充実
KPI：待機児童数
●0人

施策③ 国際交流の充実
KPI：国際交流活動への参加児童・生徒数
●累計150人(H27～31年度)

施策④ 移住・定住の促進
KPI：ふるさと帰郷支援センター等を活用したUIターン数
●累計10人(H27～31年度)

具体的な施策

◇地域資源を活用した循環型社会の構築
◇再生可能エネルギー導入によるエネルギー自給体制の構築

◇公共施設や一般住宅における地元木材の積極的活用
◇木材の安定供給に向けた森林環境の整備

◇観光資源の活用と観光施設を活用した交流人口の拡大
◇商店街の拠点整備
◇音楽のまちづくりの推進

◇起業支援を含む農業の6次産業化を推進
◇農商工学連携による新たな特産品開発や販路の拡大
◇農産物認証制度等を活用した産業の振興

◇生活習慣病予防対策の充実
◇食育の推進

◇ボランティア・NPO・コミュニティ活動の支援
◇芸術・文化活動の推進
◇生涯スポーツの推進

◇美しいまちなみ景観づくりの推進
◇まちあるきの推進

◇高齢者の生きがい対策の充実
◇地域包括ケアシステムの確立

◇知・徳・体の調和のとれた子どもの育成
◇教育施設・教育環境の整備
◇情報化社会への対応
◇健全な青少年の育成

◇子どもを健やかに育む環境づくり
◇就学前の教育・保育の総合的な推進
◇地域の子育て支援の充実
◇子育てにやさしい環境づくり

◇国際交流の推進
◇外国語教育の充実

◇移住の促進
◇定住の促進
◇効率的な行政運営の推進